

○平成29年度教育事業

「ワイルドライフキャンプ2017」(H29.8.6(日)～13(日))

【2次案内】

# ワイルドライフ キャンプ 2017

初めて包丁をにぎり、  
初めて山に登り、  
初めてテントを建て、  
とても不安だったけど、  
乗り越えられた。

仲間 がいちから  
乗り越えられた。

キャンプ期間中は、『空中テント』の体験ができます！  
フワフワと浮かんでいるような感覚になれます。

〇テントサイトジャパン

●交流の家周辺の地域は、山があり、森があり、雄大な自然に囲まれた場所です。このフィールドを活用して、地域の方と触れ合い、野外宿泊や調理活動、森散策、登山を行います。

1 『おんなでハイキング』  
火山活動によってできた原生林には、不思議なものがいっぱい。地球の歴史と自然の素晴らしさがわかるジオパークを、自分たちの目で確かめよう！(3日目実施)

2 『おんなで食を考える』  
生きることは、食をすること。農業体験を通して、自分たちの食を見つめ直し、自分たちで収穫や買い物、料理をしよう！(4日目実施)

3 『おんなで森を知る』  
森や生態系を守る人々の仕事を体験し、人と自然の共生について学んだり、自分たちの知らない森の楽しみ方(フリーイング)を体験しよう。(5日目実施)

4 『おんなで登山』  
一週間の中で最後を締めくくるとラストチャレンジプログラムです。これまで一緒に頑張ってきた仲間と声を掛け合い、協力して富良野岳頂上を目指そう！(6日目実施)

4つのチャレンジがはじまろう。

1日目 チャレンジ1  
2日目 チャレンジ2  
3日目 チャレンジ3  
4日目 チャレンジ4  
5日目 チャレンジ5  
6日目 チャレンジ6

平成29年 8月6日～13日(7泊8日)

対象 小学3年生～中学生  
定員 20名  
場所 国立大雪青少年交流の家

【QRコードで申込み】  
QRコードを読み込み、WEBから申込みできます。

独立行政法人 国立青少年教育振興機構  
**国立大雪青少年交流の家**  
National Taisetsu Youth Friendship Center  
〒071-0235 北海道上川郡美瑛町白金温泉  
TEL0166-94-3121/FAX0166-94-3223  
e-mail taisetsu-suishinshitsu@niye.go.jp

◆目的

○望ましい生活習慣の定着、炊事・洗濯などの生活技能や人間関係構築力の獲得、自己肯定感の向上など、子供たちの「社会を生き抜く力」の育成。

○地域人材や産業等の教育資源を生かし、子供たちの体験活動を通して、地域の教育力向上につながるプログラムを開発し、その成果を道内各地へ普及。

	男	女	合計
3年	2	5	7
4年	5	1	6
5年	7	1	8
6年	0	0	0
中1	3	0	3
中2	1	1	2
中3	0	0	0
	18	8	26

◆参加実績

(募集 20名)  
参加 26名

- ・旭川市 9
- ・富良野市 4
- ・中富良野町 3
- ・美瑛町 2
- ・上富良野町、南富良野町、東川町、美深町、岩見沢市、江別市、札幌市、黒松内町、以上各1

◆プログラム

① 開校式・テント設営

これから一緒にキャンプをする仲間と出会い、生活場所の確認やテント設営を行い、キャンプ生活への意識を高めた。

② 食事計画・買い物

1週間分の食事メニューを相談し、路線バスを使って買い物に行った。また、買い物の途中で地域の人々に町のよい所などのインタビューを行った。今後の炊事活動に備え、包丁や火の取り扱いを、全員が確かめた。

③ ハイキング(登山練習)

活火山である十勝岳の麓から富良野岳の麓に続く道を歩いた。火山活動によってできた地形や岩石などについて、特長のある地形をカードにしたジオカードを頼りに探す活動をとおして、火山の威力や自然の豊かさを感じていた。

④ 農業体験

地元農家のビニールハウス内でトマトの脇芽取りなどの作業体験をした。また、そこで収穫されたトマト



を使ったサンドイッチなどの昼食をいただきながら、農家の人から働くことの苦勞や収穫の喜びについて話を聞き、共感を得た。

⑤ 林業体験

地元の林業組合で、薪割りや丸太切りなどの体験、チップ工場の見学、電熱ペンで絵を描いた木のコースター作りをした。作った薪は、その後の炊事活動やキャンプファイヤーに利用した。

⑥ 登山

富良野岳頂上を目指したが、小雨の混じる強風のため、出発から2時間ほど経った標高1,500mを越えたあたりで引き返した。自然の厳しさを感じながらも、そこまでを全員でゴールできた喜びを共有した。

⑦ 選択活動

ハイキング、クラフト活動、川遊び、写真撮影、空中テントで読書の5つから個人選択で、活動に取り組んだ。

⑧ サンキューパーティー

1週間の互いの頑張りを称え、認め合いながら、スタッフによる屋台風の食事を楽しんだ。



◆成果

- ①異年齢集団による生活体験や課題解決活動が、他者への思いやりや協力して物事に取り組む態度の育成につながった。
- ②地域の協力によって提供された体験活動による子どもの姿に、地域の大人が子どもたちに関わる意欲や関心を高め、地域の教育力向上に貢献した。
- ③メニュー計画、買い物、弁当作りなど、炊事活動を多様に展開することで、主体的に活動する場面が増え、食への関心が高まり、食べ残しがほとんど無く、食事のありがたみを感じさせることができた。



◆参加者や保護者の声

- 友達がたくさんできて楽しかった。食事作りも楽しくて、いろいろと学べた。(小3女子)
- これからの人生に新しい選択肢ができた(中2男子)
- ご飯を作ることが大変だったらしく、「ママは毎日大変なんだね」と言って、手伝ってくれるようになった。(小3男子の母)

□今まで交流のないクラスメイトと学校祭の発表をしたり、部活の部長になったりと、積極性が出て、後輩の面倒をよく見ているようだ。(中2男子の母)

◆事業運営のツボ・工夫・反省

- ・食事作りを繰り返すことで、グループとしての結束、達成感の共有につながる。
- ・過年度に事業の参加経験があった中学生を、ハーフボランティアとして参加させ、リーダー性を意識した体験を提供できた。
- ・地域の教育力を高めるためには、理解者や協力者をさらに増やしていくための努力が必要である。



◆事業運営費	合計	869,000円
・企画委員、講師、ボランティアの謝金・旅費		
		170,000円
・体験活動費		200,000円
・消耗品費		370,000円

・印刷費	97,000円
・通信運搬費	32,000円